



▲歴史時代書房「時代屋」の店内。歴史関係書籍と時代小説がズラリ。自動ドアが開くと武田信玄の甲冑がお出迎え！

# 戦国武将ブームの最前線を探る

## 歴史時代書房「時代屋」

東京都千代田区神田、ここに歴史をテーマにした専門書店、「時代屋」がある。  
2006年に歴史小説と時代小説の専門店としてオープン。時代小説をメインに扱おうと、池波正太郎や司馬遼太郎といった小説を専門に扱う、今までな

かった本屋である。この女将、宮本みゆきさんにお話を伺った。  
オープン当時、本のほかに戦国武将にかかわるグッズを置けば、お客さまが喜ぶのではないかと思います。2006年の夏ごろから、戦国BASARAなどのゲームファンの方が来店するこ



▲歴史時代書房「時代屋」の女将 宮本みゆきさん。突然の取材にも快く応じてくれた。

とが多くなった。「ゲームに関連する商品も増やし、大河ドラマの人気も高くなってきたので、DVDなども置くようになりました」とみゆきさん。  
そのころから、女性のお客さまも増え、お土産物だけではなく、いろいろな戦国武将にまつわる商品はないかという問い合わせが多くなり、全国から商品を集め、オリジナル商品の製作を始めた。  
現在では、本が5割、そのほかの商品やDVDなどが5割と

## 時代屋の人気商品

人気は、戦国武将の家紋を使った商品。クリアファイルやエコバック、家紋シールなど、シールは携帯や折りたたみ傘などに張っているようだ。今までは、フィギュアなどのコレクション的な商品が売れ筋だったが、今は日常使えるものが売れている。「一番の売れ筋は真田幸村。男らしさと悲劇のヒーローというところが、女心をくすぐるのでは」と語るみゆきさん。次いで伊達政宗で、美意識やセンスの良さは戦国武将一。時代屋のスタッフや来店客にも政宗ファンが多く、瑞巖寺などは何度行っても新しい発見があると、松島を訪れる方が多いそうだ。

## 戦国武将ブームの行方

「戦国時代には、魅力的な武将がたくさんいました。その武将1人だけではなくて、小十郎にしても伊達の参謀として、他勢力と駆け引きを行っています。1人の武将を好きになると、その武将からまた違う武将へとつながっていくところで、このブームが続いているのだと思います」とみゆきさんは確信を持って語る。

戦国時代に興味を持つといういろいろな武将と出会う。そしてど

## 今 お客さまの半分が若い女性です

オープン当初は、若い女性のお客さまは少なく2割以下だった。「時代小説がお好きな年配の男性がメインでした」とみゆきさんは振り返る。  
「その後、じわじわと口コミで書店のことが広がったことと、ゲーム好きな方の来店も増えてきたということ、2007年あたりから3割から4割に増加して、2008年の統計では半分、5割が女性の方で、20代から30代の方がその9割というデータが出ています」とみゆきさんは続けた。

この要因は、戦国BASARAなどのような歴史系のゲームを楽しむことが、男女問わず普通になったこと。これにより、女性でも「歴史が好き」と言っても以前のようにばかにされたり、まじめすぎるなどと言われたりすることがなくなってきたからだとみゆきさんは分析する。  
「もともと女性の歴史ファンもたくさんいたと思います。その方々も、歴史ゲームの流行による価値観の変化でカミングアウトしたため、女性ファンの増加に拍車を掛けたものだと思います」とも話していた。



歴史時代書房「時代屋」のオリジナル商品の「ミニブシ」。片倉小十郎公のミニブシも間もなく販売される予定。

の武将も女性にとって魅力的だから、もっともっと知りたくなるのだと。当然、戦国武将は実際に生きていた人々であり、その武将の生まれ育った場所を見てみたい、どのような生い立ちだったのかなど、ましてやその武将が生きた痕跡が残っている城には、ぜひ行ってみたいと思うのではないだろうか。知られ

ていない武将もまだまだいることも考えると、このブームはまだ続く。そして、現地に行くことで、また違った武将の一面を知ることができると思う。  
「地元の方々に頑張ってもらって、私たちが知らない武将の魅力をもっとアピールしていただくと、私たちはうれいんです」と笑顔で話してくれた。



▲東京・神田にある歴史時代書房「時代屋」